

古希がすぎやっと思つたやりがいた
うれしいなついに勝つたぞ口げんか
えいじ 充

③両手突かれてもう断れぬ保証人
義雄

結局は一つになれぬ南北
幸男

家族から免許返納勧められ
アキラ

名前出さずお世話になった人なのに
風鈴

④パッキンを換えてもみたが記憶もれ
よう子

⑤アブク銭もつともつとで泡と消え
よし尚

御返し品の決めて待つ来ぬ祝い
義雄

友が逝き終活ノート要るを知る
よし尚

⑥炊飯器二合炊きでも多すぎる
英二

日本もどこのつまりの蚊帳の外
幸男

⑦クラス会片手で足りる出席者
英二

お迎えが来るその日まで笑いたい
広子

ふるさとの一輛電姿消す
哲子

⑩しまいまで名前うかばずじゃ又ね
春代

⑪限界を越えた我慢が牙を剥く
勝利

⑬逆上がりついに出来たと子の笑顔
登美

五月十七日 題「手帳」

手離せぬ手帳に残る汗と染み
林 勝利

奈良新聞 居谷真理子選

四月十八日 題「同じ」

入社式去年も聞いた一昨年も
播本 英二

味しめて次回も同じ手を使う
澤山よう子

漁港毎カニの名違う日本海
野々村アキラ

同じ穴タヌキとムジナ仲間割れ
前田 幸男

四月二十五日 題「道」

路地裏は人の生きてるにおいする
野々村アキラ

あの世には近道やめて回り道
澤山よう子

バス停までが上り坂だと気付く朝
播本 英二

近道と思ひ途中のおとし穴
橘 正清

五月二日 題「やっぱり」

親父ゴメン夢に出るのは母の顔
播本 英二

指切りをしても秘密が漏れている
澤山よう子

五月九日 題「流行る」

長髪の二十歳の写真子に見せず
播本 英二

流行を追って筆筒の肥やし増え
野々村アキラ

インフルエンザ家駆け回りやつとさる
澤山よう子

古書店で山積みあのベストセラー
五十嵐千楽

知ってるよ流行りと言えば不倫だろ
前田 幸男

五月十六日 題「それから」

一強を攻めたはいが二の矢ない
五十嵐千楽

褒めるだけ褒めてそれからグサリ刺す
野々村アキラ

病名が決まり病気が重くなる
勝部乃り子

ライバルも同病と知り無二の友
澤山よう子

愚痴を言うそれから長い愚痴をいう
橘 正清

鹿ノ台川柳教室 会員の新聞投句 掲載された句

(四月十七日～五月二十日各紙掲載分)

朝日新聞 田中新一選

五月十日 題「ゆずる」

後進に道を譲ってからの鬱
野々村アキラ

五月十七日 題「分ける」

分け合った苦労を笑う林住期
野々村アキラ

滾る血が分水嶺を乗り越える
奥村 義雄

毎日新聞 山田順啓選

四月十九日 題「結ぶ」

反抗期結び目少し緩ませる
野々村アキラ

君が代で結び日の丸誇らしげ
勝部乃り子

四月二十六日 題「坂」

余生にと坂のない地図渡される
澤山よう子

坂道は上り下りや待つまさか
前田 幸男

五月十日 題「燃える」

今一度燃やしたい夢ふつつつと
澤山よう子

奈良新聞 自由吟

四月十九日 大楠紀子選

おにぎりにほのかに残る手の温み
澤山よう子

生き様と国の未来はブリザード
橘 正清

姿見にわが体型を笑われる

前田 幸男

五月十日 松本征子選

心音を止めてストレスから逃げる 橘 正清

目的があつて歩幅が頼もしい 澤山よう子

夢を抱く若葉に心よりエール 野々村アキラ

かけ流し100%の贅沢や 前田 幸男

五月十七日 松本征子選

残照に明日の活力溜めておく 澤山よう子

奴隸から解き放たれて笑う山 橘 正清

今を生き今を楽しみ明日は明日 野々村アキラ

* 橘正清、林勝利、前田幸男、

各氏は短歌俳句でも各紙で活躍

* 薫風に誘われて newface 4人が加わり計二十一人と
新記録。4人は、句会に見学経験のあるタカミノさん
(南2)がメンバーになった。ほかに、はるばる郡山
から早苗さんとノリ子さんが。市民講座に参加した風
鈴さんも。風鈴さんが早速「秀句」2つ獲得するなど、
皆さん大活躍だった。

句会のあとはビールとお茶で軽く乾杯し、今後の健闘
を誓いあった。(千)*

川柳を一緒に楽しみませんか

生活にうるおいと笑顔を

興味のある方左記まで是非ご一報を

次回句会 六月十八日、十二時三十分、西集会所

宿題は「乱」、「酔う」、「自由吟」 各二句

* 「席題」選者 正清 十二時三十分「お題」発表

* 「乱」連記 選者 ミノル

* 「自由吟」(共選) 選者 良一 哲子

* 「酔う」互選

出句× 宿題・席題」とも十三時

問合せ

原 広子 (79・0061)

野々村詮 (090・6961・1292)